



世界を知ろう！ 世界について考えよう！！ —国際社会に生きる日本人として—

中村麻奈美

広島県市立横路中学校

◆実践教科 英語 学校集会 ◆時間数 4時間
◆対象学年 主に3年生（学校集会は全学年と教職員）
◆対象人数 英語3年生129名
学校集会全学年361名と教職員31名

カリキュラム

■実践の目的

- ・世界の現状について、興味・関心、そして問題意識をもてるようになり、地球規模で世界を見る力を養う。

- ・欧米文化理解のみでなく、幅広い国際理解感覚を育てる。
- ・世界について知ることで、国際社会に生きる日本人として世界の人々と共生するには何ができるかについて考える。

■授業の構成

時限・テーマ・ねらい	方法・内容	使用教材
1 時限目 「世界の国々」 世界の中の先進国と開発途上国 について知る	<ul style="list-style-type: none"> ・「世界の国名あげゲーム」 ・世界地図で探す ・英語が使われている国々を探す ・「開発途上国」のイメージを考える→発表する ・先進国と開発途上国のかかわりについて知る 	ワークシート 世界地図 地図帳
2 時限目 学校集会 「開発途上国から学ぶ」 ガーナについて知り、それを通して地球の環境問題や私たちの生活について考える	<ul style="list-style-type: none"> ・無人島ゲーム ・開発途上国って？ ・ガーナの水事情とガーナ人の水の使い方を知る ・自分たちの生活を振り返り、自分の生活との共通点や相違点、気づき、感想をまとめる 	パワーポイント ワークシート バケツ
3 時限目 「世界のために働くということ」 英語の教科書に登場する人物を通して世界の平和について考える	<ul style="list-style-type: none"> ・教科書に登場したクリス・ムーン氏は何のために義足で走りつづけているのか考える ・世界のための活動とは何か、意見を出し合う ・JICAについて知る 	教科書「One World 3」 JICA資料
4 時限目 「私たちにできる国際協力」 地球市民として、日本人である私たちは何ができるか考える	<ul style="list-style-type: none"> ・マッチングゲーム ・支援や援助をした物がどこでどう役立っているか考える ・自分たちにできることはないか考える ・ガーナで働く青年海外協力隊員からのメッセージを聞く ・意見をまとめる 	ワークシート ガーナで出会った青年海外協力隊員の写真

授業の詳細

1 世界の国々

まず初めに、自分たちが世界の国名をどの位知っているか3分間競争で書き出してみた。3分後、各班に分かれ、どんな国が挙げられたか世界地図で確認をし、白地図上で挙げられた国に色をつけていった。自分たちが知っている国名に偏りがあることに気づくことができた。地図帳を使い、英語が使われている国を探することで、「英語圏」ではないが「英語が使われている国」の多くは開発途上国であるということに気づくこともできた。「開発途上国」と聞いてイメージするものは何か、意見を出し合った。日本もそのうちのひとつである先進国と、開発途上国とのかかわりについて情報の共有をした。最後に本時の授業での感想や意見をまとめていった。

生徒の持っていた開発途上国のイメージ

- ・貧乏
- ・食べるものがない
- ・水がない
- ・戦争
- ・病気が多い
- ・汚い
- など

生徒の感想・意見

- ・たくさん国の名前は挙げられたけど、ほとんど先進国だった。世界のうち80%が開発途上国と聞いて驚いた。
- ・アメリカやイギリスだけではなく、たくさんで英語が使われていることが分かった。アフリカでも英語が使われていた。

2 開発途上国から学ぶ

8月下旬から私たちの町の周りは水道管崩落により断水が続いていた。この水不足とガーナの水事情を絡め、地球の環境問題や自分たちの生活の振り返りをする学校集会を行なった。

まず、「無人島ゲーム」をし、「開発途上国」がどのような国であるか理解をすることができた。その後、開発途上国のうちの一つであるガーナの紹介をした。国の位置、首都、国旗などをクイズ形式で紹介し、ガーナの文化や習慣、同年代の子どもたちの楽しそうな姿などを、パワーポイントを使って紹介した。明るく楽しそうなガーナ人の

姿が自分たちの抱いていた開発途上国のイメージと違っていたためか、生徒は興味深そうに見ていた。ガーナの習慣として、水汲みの紹介をし、ガーナ人の上手な水の利用方法を紹介した。また、実際に私がホームステイ先で体験したバケツでお風呂に入る方法について、どうすれば無駄がなくお風呂に入れるか相談しながら考えてみた。相談して色々な方法を聞いた後で、小さなバケツを使うと無駄なくいつも通りお風呂に入れることを伝え、ちょっとした工夫で無駄を無くすることができるということをガーナ人の生活から学んだ。最後に私たちの一日に使う水の量とガーナ人の使う水の量の比較や、日本の上水道システムではたくさんのエネルギーが使われそれも地球温暖化につながる一つであることを伝えた。世界人口の約1/65は私たち日本人。私たち一人一人が少しずつ何かを変えれば地球が少しずつ変わっていくことを改めて考え、教室に戻って感想や意見をまとめた。



村の家族



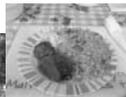
市場



村の学校



村に一つしかない井戸に水汲みに来た子どもたち



ガーナの食べ物

(バンケ・ワチェ・フライドライス・フーフ)



頭にバケツを乗せて家まで歩いて帰る



バケツ一杯の水でお風呂に入ります



小さいバケツで工夫

英語科の教科書に出て来たクリス・ムーン氏（NGOで地雷除去作業中に右手右足を失いながらも、今も除去作業の資金集めのためにマラソンを走りつづけている）の登場するLessonの予習もかね、「世界のために働くということ」について考え、意見を出し合った。その後、JICAやNGO、ユニセフなど国際協力にも色々な機関があることを伝え、最後に青年海外協力隊について紹介をした。

生徒の感想・意見

- ・日本は生活も便利で、困ることはないけど、水などのものの大切さが分からなくなっていると思う。もう一度自分の生活を見直したいです。
- ・バケツ一杯の水でお風呂に入れるってビックリした。今日家で挑戦してみようと思う。
- ・日本人が少しずつ変わって世界の1/65が変わったら、世界はもっときれいになるはず。
- ・バケツ一杯でお風呂を済ませることに感動しました。私も食器を洗う時とか、工夫をして水を使っていきたいです。
- ・自分がいかに贅沢で無駄遣いをしていたか気づいた。できることからやっていきたい。
- ・私も開発途上国に行き、そこで生活してみたい！
- ・ガーナは貧しいけど、すごいところがたくさんあった。意外だった。
- ・ガーナも都会と田舎では格差があるんだなと思った。ガーナ人も米を食べていた。

4 時限目 私たちにできる国際貢献

英語科の教科書内容理解の授業を終え、世界平和のために私たちができる国際協力・国際貢献とは何かについて考えた。

まず、初めにA群（具体的な行動 例えば「書き損じ集め」とB群（開発途上国などで使われるもの 例えば「子供の教育費」）のマッチングゲームを班対抗で行なった。その後、B群のものがどこでどの様に使われるか（活かされるか）について想像し、意見の交換をした。昨年度、生徒会活動で書き損じ葉書を集め、ラオスの子ども2名が学校に通えるようになったという活動実績もあることから、生徒は色々な国を想像し、話し合っていた。

それでは、実際に今の自分たち一人一人では何ができるかという力の限りがあるということに気づいた。多くの人の理解と協力で国際協力は成り立っているという意見も出た。

最後に、ガーナで会った青年海外協力隊員の方々のインタビューを紹介した。その中から「募金をしたり、物資を送ることも大切だけど、世界で今何が起きているのかを知っておいて欲しい」というメッセージを伝えた。

すぐに私たちにできる国際協力について学び、考えたことをワークシートでまとめた。



ガーナで働くエイズ対策の協力隊員（左から大金隊員、橋本隊員、佐藤隊員）

生徒の感想・意見

- ・世界のこともっと知って、今地球で起きていることを分かった上で募金などをしたらいいんじゃないかと思う。
- ・私にできることは募金くらいしかないと思っていたけど、今日の授業を通して世界のことについてニュースを見たりして知って、色々な人と仲良くして、国際交流の輪をもっと広げられたらいいなと思いました。そうすると経済格差もほとんどなくな

るのではないかと思います。

- ・募金など間接的に協力するのではなく、直接現地に行って自分ができることをして協力できるようになりたい。
- ・今世界は色んな大変な国があるんだと思った。大人になったら色んな国に行って色んな人を助けたいなあと思う！！
- ・直接は何もできないかもしれないけど、誰に対しても思いやりを持つことが大切。

成果と課題

《成果》

- ①自分が以前から子どもたちに伝えたかったことを、ガーナでの経験や事前事後研修で学んだことなど、自分が体験をすることで具体的に伝えられるようになった。
- ②生徒が先進国だけでなく、開発途上国も含んだ世界の国々に興味を持つようになってきた。開発途上国に行ってみたいという生徒も増えた。
- ③生徒が、他の国の文化や習慣などを学び、そこから自分たちの生活や行動について振り返り、考えられるようになってきた。

《課題》

- ①全体のビジョンがきちんとできていなかったこと、授業が確保できないなか半ば強引に英語科の授業で実践したことで、授業のつながりがうまくできていない。
- ②余裕を持った時間数で実施できていないので一つ一つに十分に時間をかけることができていない。
- ③もっと参加型を取り入れ、ファシリテートできるように自分の力を付ける必要がある。

今回の教師海外研修が私にとって国際理解教育・開発教育の出発点となりました。駆け出したばかりで授業を思うように進めることはできませんでしたが、私自身が授業をしていて生徒の可能性や面白い発想、考える力に感動し、たくさんの発見をすることができました。少ない時間数ではありましたが、少しでも子どもたちに種をまく事が出来ていたらいいなと思います。そしていつか小さくてもいい、芽を出してくれると嬉しいです。

これからも自分が体験したことを多くの人に伝え、少しでも種を蒔けるように実践を続けていきたいと思っています。